令和４年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第１回 学校運営協議会 議事録

１　日時
令和４年５月17日（火）10時～12時

２　会場
県立阿賀黎明高等学校　多目的ホール

３　参加者
委員７人（欠席者なし）
（オブザーバー参加）
○　阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者３人
○　阿賀黎明探究パートナーズ関係者６人
○　阿賀黎明高等学校教職員４人
計20人

４　次第及び発言の概要
(1) 開会
(2) 開会あいさつ（伊藤校長）
本日はご多忙の中、令和４年度コミュニティ・スクール第１回学校運営協議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。
この学校運営協議会も３年目となりました。また、これまでの２年間におきまして本校の教育活動及び生徒募集の取り組みについて忌憚のない貴重なご意見を数多くいただきましてありがとうございます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。
この町・地域の多くの方々に本校の教育活動にかかわっていただく「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」も７年目となり、地域に根ざした特色ある様々な教育活動として定着してきて、なおかつ発展し続けているところであります。
本校の特色ある活動の一つである地域探究活動は、今年度入学生から地域探究コースが設置され、さらにその取り組みが広がっていきます。主に「総合的な探究の時間」や本校の学校設定教科・科目である「地域学」において行われていますが、この活動には地元の企業等の有識者で組織された阿賀黎明探究パートナーズの方々に関わっていただいております。
また、阿賀町、阿賀町教育委員会から支援いただき、地域みらい留学入学生募集の取り組みに、特色ある活動や地域の魅力を広く県外に発信し、昨年度からは県外からも入学生を迎えるようになりました。
そして、遠方から来る生徒の日々の生活を町が寮を開設し、生活費を一部補助していただく形で支えていただき、学習についても町が公営塾、黎明学舎を運営していただいています。
また、昨年度より文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校連携・協働ネットワーク構築事業（ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想）」では、

「新潟の未来をＳａＧａＳuプロジェクト」として県内７校でネットワークを構築し、「遠隔授業モデルの構築」、「小規模校間連携モデルの構築」、「地域探究のための地域協働体制構築」に取り組んでいます。昨年度、遠隔授業の取り組みについては高い評価をいただき、今年度は、２科目ではありますが、１年を通しての本格実施に取り組んでおります。このように、今年度はこれらの取り組みを昨年度の経験を活かし、さらに発展させていき、地域の実態に合った特色ある学校づくりを推進していきたいと考えております。

私は、この４月に赴任して、まだ、１ヶ月半程度しか経っておりませんが、地域連携について特に感じているのは、本校の教育に関わっていただいていている地域のみなさんが本当に楽しそうに取り組んでくださっていることです。先日の探究パートナーズの方々の打ち合わせにおいても、集合時間に合わせ、パートナーズの方が三々五々集まって来られるのですが、話の輪が一つ二つとでき、談笑されていて、いざ、全体での打ち合わせが始まりますと、生徒が地域探究活動を主体的に進めるためには、あるいは成果ある活動にするためにどう進めていけばよいのか、みなさん楽しそうに生き生きと話し合いをされていて、生徒たちもきっと楽しんで取り組めるだろうなと思いました。

取り組みの成果はなかなかすぐに数字に現れるものでもありませんし、今年度は、全校生徒50人でのスタートで、生徒数の減少には歯止めがかかっていませんが、このような取り組みは着実に生徒の中に成長の種が蒔かれ、継続し取り組めば必ず実りがあるものと確信しています。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

⑵ 会長、副会長選出（事務局）

会長として清野　一男　様、副会長として遠藤　佐　様を選出した。

⑶ 会長挨拶（清野会長）

⑷ 本校の状況についての報告（本保教頭）

ア　令和４年度の生徒在籍状況

今年度は１学年17名、２学年16名、３学年17名の計50名でのスタートとなる。男女別では男子が30名、女子が20名となる。教職員一同、預かった生徒たち一人ひとりに寄り添いながら学校活動を進めていきたい。

イ　令和４年度入学者状況

今年度は、特色化選抜で４名、一般選抜で11名、欠員補充による二次募集で２名、計17名の生徒から入学していただいた。出身校別の内訳は、阿賀津川中から９名、県内町外中学校から１名、県外中学校から７名となっている。生徒募集については、地域みらい留学への参加をはじめ、阿賀町よりたくさんの支援をいただいており、感謝申し上げる。三川中からの受検者が無い状況なので、今年度は学校訪問等を行い、こちらからアプローチしたいと考えている。

ウ　令和３年度卒業者進路状況

おかげをもって38名の卒業生を送り出すことができた。感謝申し上げる。

卒業生の進路内訳は、大学短大が７名で割合にすると18.4%となる。次いで、専修学校等が15名、38.5%と最も大きくなった。就職は15名、39.5%で、コロナ禍の大変な状況であるにもかかわらず、100%達成することができた。他、未決定者がその他として１名いるが、卒業後も高校としてできる限りの支援を続け、希望の進路に進めるよう努めていきたい。

エ　令和４年度進路希望調査結果について

先般の進路希望調査によれば、大学等が19名で38%、専修学校等が15名で30%、就職が15名で同じく30%、その他が１名となった。学年が進むにつれ、大学等の希望者が減り、専門学校等の希望者が増加する傾向にある。進路指導を一層充実させ、生徒が入学に希望している進路を実現できるよう、励ましながら支援していきたい。

(6) 令和４年度の取組について

ア　令和４年度　地域と連携した授業予定（西田地域学校協働活動推進員）

(ｱ) １学年阿賀町さいこうプロジェクト

プロジェクト実践者の話を聞き、地域を知るとともにプロジェクトがどのように成立していくかを学び、２年次のプロジェクト企画につなげることを目的として実施する。

「まちづくり・福祉」「観光・商業」「自然・農林業」の３つのテーマに分かれ、それぞれパートナーズの方にも参加していただく考え。

(ｲ) ２学年阿賀町さいこうプロジェクト

自分の興味関心分野でテーマを設定し、職業人インタビューの後プロジェクトを設計した上、受け入れ先事業所と共に実施する予定である。昨年は「アウトドア」「林業」「食」等８ジャンルに分かれ実施した。

(ｳ) ２学年地域学Ⅰ実践編「プロジェクト活動」

阿賀黎明探究パートナーズと一緒に地域をフィールドにプロジェクトを企画立案、実践し、まとめた上で発表する。「まちづくり・商業」「福祉・農業（食）」の２チームに分かれてプロジェクト活動を実施予定である。なお、夏休み中も自主活動として実施予定である。

(ｴ) ３学年地域学Ⅱ「ふるさとＣＭ大賞」応募動画作成

昨年度（２年次）に取り組んだ「阿賀町さいこうプロジェクト」を題材に、高校生の視点で「ふるさと」を再解釈し、30秒のＣＭ制作を体験する予定である。身近なところから地域との繋がりを考え、それを表現する動画を企画・撮影・編集し発表する。

完成した作品の中から特に優れたものを、阿賀町からふるさとＣＭ大賞に応募していただくことになっている。

イ　令和５年度地域みらい留学入学生募集に向けた活動について（西田地域学校協働活動推進員）

(ｱ) 入寮定員について

「まなびの森交流館」第２期工事が先般終了した。これで14室28名（別途、感染症対応のための予備室２室）収容可能となる。４月１日現在の在寮生徒数は男子が８名で５室、女子が６名で４室となっている。

(ｲ) 募集の流れ

募集の流れについては、以下のとおりである。

①オンライン合同説明会（４～５校１組のグループで実施）
②オンライン学校別説明会
③学校見学＆まなび体験会（現地）
④オンライン個別相談会（任意）
⑤入寮申し込み（郵送）
⑥面接

(ｳ) 令和５年度入学生募集に向けた活動

「学校見学＆まなび体験会（現地開催）」の日程については、第１回を７月30日（土）に、第２回を８月27日（土）に、第３回を９月17日（土）に、第４回を10月15日（土）開催予定である。

他に、「地域みらい留学オンライン合同説明会」に６月４日・５日、７月９日・10日、８月６日・７日、９月３日・４日の計４回参加予定である。内容としては、ビデオ会議システムZoomを利用し、1日につき２回の４校合同説明会（５分間プレゼン＋20分間の質疑応答）を行う。

さらに、９月24日は東京にて対面で説明会を開催する予定である。

また、町内及び県内の中学生に対しても「学校見学・まなび体験会」参加に向け、呼び掛けてみようと思う。町内中学校に対しては、「総合的な学習の時間」等の企画、運営支援を行うとともに、イベント等のお知らせを集会などで告知していく予定である。

阿賀黎明高校の探究活動についてＰＲするためのニュースレターも発行し、町内及び近隣市町村に配布、掲示をお願いしたいと考えている。

ウ　「新潟の未来をＳａＧａＳｕプロジェクト」について

＜資料に基づき説明＞

エ　質疑応答

清野会長：阿賀黎明魅力化プロジェクトのうち、黎明学舎の運営方針が、「学力保障」から「探究学習支援を中心とした地域人材の育成」を育てる方向に変わってきている。このことが生徒や保護者にきちんと理解されているのか。また、あいかわらず、地元中学校の生徒が阿賀黎明高校に入学しないことは大きな課題である。

遠藤副会長：阿賀黎明高校の取組や黎明学舎は中学生に認識されている。選択肢と

しての魅力を持たれつつあり、（阿賀黎明高校と黎明学舎の）連携もとれている。なお、阿賀津川中学校の高校進学先は20校あまりと多様化しているが、今春は阿賀黎明高校が五泉高校と並び最多人数であった。

伊藤校長：阿賀津川中学校の３年生への進路説明会等で、地域探究コースや黎明学舎の取組等をよく知ってもらうようにしたい。

加藤委員：（小中の保護者としての意見であるが）黎明学舎は塾という認識であり、今取り組んでいる活動は保護者に理解されていないのではないか。活動を周知・ＰＲしていかないともったいない。魅力ある学校づくりが大切、町外から入学してくる生徒も増えてくるのではないか。

齋藤指導主事：地域探究は地域調べ中心になったり、地域に生徒を閉じ込める雰囲気が感じ取れる取組では、地元中学生は敬遠してしまうかもしれない。県内、県外、海外との比較といった視点や機会を持ち合わせながら、「地域資源を活用する」という視点に立った取組を期待したい。

(7) 閉会、副会長挨拶（遠藤副会長）

令和４年度からの地域探究コースは、生徒たちの学びの充実と地域に拓かれた学校に向けて、有意義な取組となることを期待している。